

成田強化で検討会設置、航空会社が参加

■国土交通省

国土交通省は24日、「今後の成田空港施設の機能強化に関する検討会」を立ち上げる。国交省が事務局となり、有識者や航空会社が参加。2029年3月末に計画されている滑走路増設・延伸や、新貨物ターミナル・新旅客ターミナル整備などの「さらなる機能強化」、それによる容量拡大の効果を最大化するための施策を議論する。

成田空港のさらなる機能強化に関しては、成田国際空港会社（NAA）が事務局となって有識者や関係自治体、国交省が参加した「新しい成田空港」構想検討会で、施設整備のあり方やスケジュールなどを議論した経緯が

ある。貨物施設に関しては空港東側に新たなターミナルを整備。継越需要も取り込む東アジアの貨物ハブを目指して最高水準の物流効率性を追求する方針を示した。併せて空港隣接地との一体的運用や圏央道とのスムーズなアクセスが可能で、環境負荷低減や地域発展に貢献する貨物取扱施設を実現する方向性を盛り込んだ。NAAは今年7月に国交省に同とりまとめを提出した。

今回、新たに設置する検討会は、国交省が事務局となって、さらなる機能強化を受けて成田空港に求められる国際ハブ空港としての要素などを検

討する。例えば航空会社が求める機能などについても意見交換する予定だ。

国交省は「現在、成田空港ではC滑走路の新設など『さらなる機能強化』を進めているが、日本の国際競争力を確保するためには、これと併せて国際ハブ空港としての成田空港の競争力の維持・強化を進めていくことが不可欠」と説明。「ターミナルなどの施設整備や都心、さらには羽田空港との鉄道アクセスといった今後の成田空港の施設面での機能強化について、学識経験者や関係事業者などと検討する」としている。